

7507

唐三郎窯

TOUZABUROU GAMA

事業所名	唐三郎窯	FAX番号	0561-82-4956
代表者名	加藤 唐三郎	Eメール	
所在地	〒489-0023 瀬戸市窯元町80	ホームページ	http://touzaburougama.com/
連絡先	0561-82-4832	部会名	陶芸部会

初世 景正 藤ノ四郎兵衛 春慶

貞応2年3月道元禅師に随い唐に渡り、陶技を練修、安貞2年8月帰朝後瀬戸に窯を築く、時任三千一寅年なり、瀬戸陶業の祖なり。

19世 景貞 利右衛門 後に唐三郎

初世景正より19代の直系に当たる。慶長13年美濃國郷之木に移り陶業を営んでいたところ、慶長15年2月5日、景正の直系の家系の者として、徳川家康公の命により召出され、赤津に於て家康公並びに尾張徳川家の御用を勤むべく命ぜられた。

この時、景正名を唐三郎と改め、苗字帯刀を許され爾後窯屋として家宅、窯場、御除地八反五畝二十四歩を永代拝領し、年貢諸役を免除された。

平成3年4月、31世 唐三郎を襲名(旧名 幸次)し、現在にいたります。

昔は茶道具が主流でしたが、現在では花器、和食器、陶芸品全般を手掛けています。唐三郎ブランドがもつ伝統の技を大切にし、独自の技法やデザインを積み上げて上質の作品を作っています。

年に2~3回、展覧会を開催し唐三郎ブランドをアピールすると同時に、食文化と焼き物を融合させる展開をしていると考えています。



御深井線文花入

略歴

昭和23年 愛知県瀬戸市赤津に生まれる、
 昭和49年 東海伝統工芸展初入選 以後38回連続入選
 昭和53年 日本伝統工芸展初入選 以後 24回入選
 昭和54年 東海伝統工芸展奨励賞受賞 以後 5回入選
 平成3年 第31世・加藤唐三郎を襲名
 平成4年 「東海の作家たち」展出品
 平成8年 第27回 東海伝統工芸展審査員 以後3回審査員
 平成11年 丸栄(名古屋)個展 以後 隔年開催
 平成14年 高島屋(日本橋)、高島屋(岐阜)個展

現在

(社)日本工芸会東海支部 幹事
 瀬戸陶芸協会 常任理事
 県立瀬戸窯業高等学校 非常勤講師
 CBCクラブ 会員
 日本工芸会 正会員
 瀬戸市無形文化財保持者



御深井釉刻文鉢



黄瀬戸線文花入



黄瀬戸刻文花器